

児童期の発達課題についての教育心理学的考察（Ⅲ）

—大学教員が兼務した附属小学校校長からの提言—

假屋園昭彦¹

(2022年11月16日 受理)

Educational Psychological Study on Developmental Task in Childhood.

—Perspective of the Principal of an Elementary School Attached to Kagoshima University—

KARIYAZONO Akihiko

要約

筆者は、鹿児島大学大学院教育学研究科の教員（教授）であり、同時に平成29年度（2017年度）から鹿児島大学教育学部附属小学校校長を兼務している。筆者の研究者としての専門分野は、教育心理学および道徳教育である。本稿は、筆者が研究者の立場から、同時に校長として附属小学校で行った職員会議、委員会での指導助言を整理した内容である。これらの内容は、附属小の先生方、児童、そして保護者に考えてもらいたいメッセージである。それぞれのメッセージは、心理学、哲学、倫理学の理論を学校教育に当てはめて考察した内容になっている。

キーワード：行動と心、型と形式、偶然と必然、発達課題、受動性と能動性、個性、楢円の理論

問題と目的

I. はじめに

筆者は、鹿児島大学大学院教育学研究科の教員（教授）であり、同時に平成29年度（2017年度）から鹿児島大学教育学部附属小学校校長を兼務している。本稿は、校長として附属小学校で行った委員会、職員会議での指導助言をまとめた内容である。これらの指導助言は、教育心理学

¹ 鹿児島大学法文教育学域 教育学系 教授

および道德教育を専門とする研究者が、附属小学校での経験をもとに考察した内容であり、同時に児童および職員の方々へ送ったメッセージである。

それぞれのメッセージで土台になっているのは、心理学、哲学、倫理学の理論である。これらの理論に筆者の考えを加えながら、校長の立場として、教師、児童、保護者に考えてもらいたい内容として伝えたい内容を指導助言として作成した。

本稿の構成を以下に示す。

Ⅱ. 校内での会議・委員会における指導助言と挨拶:平成30年(2018年)3月から令和3年(2022)4月1日まで

Ⅱ. 校内での会議・委員会における指導助言と挨拶

2018年3月26日 辞任式 職員朝会 挨拶

主題:言葉は器・転出される先生方へ

昔の道德の読み物資料に「わたしの心のアルプス」(学研5年)という物語があった。このなかに「この世の中で一番美しいのはお別れの言葉さ。お別れの言葉にはウソがないからね。」というフレーズがある。このフレーズをもとにして、次のような中心発問を作って、検証授業をしてもらったことがある。次のような発問であった。「お別れって、普通、悲しいよね。お別れは悲しいのに、悲しいはずのお別れの言葉が美しいのはなぜだろう?みんなで話し合ってみましょう。」。

悲しいはずのお別れを、美しい言葉で表現するのはなぜだろう。悲しい気持ちを美しい言葉で包んであげることによって、悲しみに耐えていけるからではないだろうか。悲しみの気持ちだけでは、とてもつらくて耐えていけないかもしれない。辛い経験や悲しさを、美しい言葉で包み、表現することで、むきだしのままでは耐えていけない気持ちを抱えていけるようになる。

言葉は器のようなもので、言葉という器のなかにいろんな意味や感情が込められている。転出される方々は、多くの経験と思い出を私達のなかに残してくれた。これら一つひとつの経験と思い出を、「今までありがとうございました。皆さんと共有した時間を決して忘れることはありません。そしてこれからのご活躍を祈念しています。」という言葉に込めたい。

引用文献

みんなのどうとく5年 鹿児島県版 (2014) 学研教育みらい

2019年1月4日 職員朝会 指導助言

主題:中心は二つ・楕円の理論

【 楕円の理論 】

大平正芳元総理大臣が提唱した考えに楕円の理論がある。普通の円は中心が一つである。しかし、楕円は中心が二つある。楕円のように自分の中に二つの中心を持つておく必要がある。二つの中心があつてはじめてバランスがとれる。対立する二つの中心の一つだけを選んで円を描こうとせず、

二つともに中心として楕円を描け。以下に二つの中心にはどんなものがあるかを考えてみた。

【 理想と現実 】

理想だけで突っ走ることなく、しっかりと現実を見据える。しかし理想を忘れては、迷走するだけで、どこに向かっているのかがわからない。

【 清と濁 】

きれいなところだけではなく、濁ったところもあわせもつ器が必要である。

【 不易と流行 】

変えるべきところは変え、変えなくてよいところは変えない。

【 鳥の眼とアリの眼 】

対象から距離をとって俯瞰的大局的に捉える鳥の眼と、対象に近づいて細かく微視的に捉えるアリの眼を使い分ける遠近法が必要である。

【 幹と枝葉 】

幹が順調であれば、枝葉に囚われる必要はない。大切なのは幹と枝葉を見分ける力である。

【 実利と理念 】

理念が違う人とも、実利が合えば握手をしなければならない時もある。

【 想定通りと想定外 】

予定を立てていても、突発的に想定外の出来事が起こったら、その都度、柔軟に修正する。想定通りの中心だけでなく、想定外の中心ももっておく。

【 聖と俗 】

自分のなかの聖域の部分と俗域の部分をもっておく。聖域だけだと食べていけない。

【 オンとオフ 】

オフがオンを支え、オンがオフに意味をもたせるのかもしれない。

どちらか一方だけを優先し、他方を切り捨てるのではなく、対立する二つの中心の両方を合せ飲む器と両者の均衡を見つける力が必要である。

二つの中心があってはじめて懐の深さが生まれる。自分なりの二つの中心を考えてみるとよい。筆者は道德教育を専門の一つとしているが、道德は中庸、均衡、バランスであると言われるゆえんがここにある。

楕円の理論は大平元総理の提案である。大平元総理（1978）は、二つの中心が均衡を保ちながら緊張した関係にある行政を目指した。横浜税務署長時代（1938）の話として、「税務の仕事は、常に課税者の眼（税金をとる側）と納税者の眼（税金を収める側）の両方の視点が必要だ」と説いた。自民党の谷垣元幹事長も、幹事長就任時（2014年）、大平元総理の楕円の理論を使った。右派も左派も両方合わせ飲む器の大きさ、懐の深さをもつ政党を目指したそうである。

2019年3月8日 教育計画全体会 指導助言

主題1：行動と心の関係・容儀指導の意味

主題2：型と形式について

① 行動と心の関係・容儀指導の意味

3月1日から始まった卒業式の全体練習に、昨日の予行練習まで毎回参加させていただきました。卒業式の練習では行動を整える練習をしています。そこで行動と心の関係についてお話します。ここの行動とは、作法や、礼儀、容儀、姿勢といった行動の型であります。

行動と心には二つの方向があります。一つ目は行動から心に向かう方向。二つ目は心から行動に向かう方向です。

一つ目の行動から心に向かう方向は、作法を整えることで心の乱れを和らげる働きがあります。「礼儀作法によって心を制す」という働きです。ここでは、行動のあり方が心のあり方を決めると考えます。生活様式によって意識のあり方が決まる、と考えます。したがって、皆が同じ気持ちになるように、すなわち、心をそろえるためには行動をそろえることが必要になります。何もしないところから心が育つのではなく、行動の蓄積から心は育つ、と考えます。

二つ目の心から行動に向かう方向は、心のありようが行動に表れることを意味します。したがって、皆が同じ行動をとることで、皆が同じ気持ちをもっていることを表現できます。あるいは、たとえば学校で行われている容儀指導は心から行動の例になります。すなわち、心のありようが行動に出るのです。ハンカチ、ちり紙、つめ、帽子、ネームといった容儀指導には次のような意味があります。同じ物を毎日忘れずに準備できるかどうかは、子どもの日々の状態を映し出しています。不安定な子や生活が乱れている子は同じものを毎日準備することができません。また上崎先生の指導にありました「人の心は後姿に表れる」という指導もこの例になります。人の心は立ち居振る舞いに表れる、という考えです。

卒業式の作法の練習はこの二つの方向を同時に扱っているところに意味があります。児童は卒業式練習をとおして「行動が心を育て、行動で心を表現する」という体験をしているところに意味があると考えます。

② 型と形式について

3月1日より始まった卒業式の全体練習に毎回参加させていただきました。全体練習では、型を整える指導が行われています。そこで、型と形式の役割について考えてみます。形式的という言葉がありますが、これは「内容がない」といったマイナスイメージで用いられることが多いようです。しかし、実は型と形式の意味は、内容がないという意味ではありません。型と形式の意味は、内容を超えた、内容に左右されない普遍性がある、という意味です。形式論理学という言葉はこのような意味で使われます。

型、形式とは普遍性があるということです。普遍性があるとはじめて共有することができます。目に見えない心を皆と共有するためには、心を、普遍性をもった型として表現する必要があります。

型、形式をもつことによって始めて共有可能な表現になります。

世の中には、具体的個別的な事柄と形式的普遍的な事柄があります。目の前に存在しているものは、具体的で個別的な事柄ばかりではなく、その底には常に、普遍的な共通性が広く浸透しています。この共通性の仕組みの上に、具体的で個別的な事象が成立しています。この共通性が普遍性を意味します。現実の世界には、この共通性すなわち普遍性が浸透しています。この共通性（すなわち普遍性）が型と形式を作ります。

ポイントは、具体的個別的な事柄は、共通性と普遍性に基づく型と形式なしでは表現できない、ということなのです。典型的な例が言葉です。個別的で具体的な内容を思っている、普遍的な形式である言葉に媒介されなければ表現できません。普遍的な形式で表現されて初めて他者と共有することができます。

2019年3月26日 辞任式 職員朝会 挨拶

主題：偶然と必然・転出される先生方へ

転出される先生方への言葉として「偶然と必然」の話をしたいと思います。私達は自分の意思にかかわらず何らかの事実が与えられ、その事実の中で生きていくしかありません。しかも自分にどんな事実が与えられるかは自分の力ではどうにもなりません。そうだとすれば、それは偶然だと言えます。この親に生まれ、この時代に生まれたことは偶然です。そもそも生まれたこと自体が偶然です。

では私達は、偶然に翻弄されながら生きていくしかないのでしょうか？転出される先生方も、偶然、附属小に着任されました。しかし、先生方は偶然に翻弄されることなく、附属小で確かな実力を身に付けられました。今は、「附属に来たことは偶然だった。けれども附属に来たから今の自分がある」と自信をもって言えるのではないのでしょうか。

「附属ではなく、別の学校に赴任していたら今の自分はなかった。今の自分になるためには附属でなければならなかった」。そう言えた時点で偶然が必然に変わります。

今や皆さんは、「附属に来たという偶然」を、「附属でなければならなかった」という必然に変えたと言えます。人間は偶然を自分の力で必然に変えていくことができます。

附属に来たことは偶然だった。しかし「附属で時を過ごし、附属だったからこそ今の自分がある」。将来そう言えるように今を過ごす。これが偶然を必然に変える営みです。これが生きるという営みの原理だと私は思います。

そして転出される先生方は、附属で実際にそういう時を過ごしてきた。ニーチェという哲学者は、「偶然という運命の下敷きになることなく、自分の運命の上に立とう。」と言いました。この言葉を転出される先生方に送ります。

転出される先生方の附属での生き方に敬意を表し、私の惜別の言葉といたします。

引用文献

フリードリッヒ・ニーチェ （1995） ツァラトゥストラはこう言った ワイド版岩波文庫 岩波書店

2019年4月2日 職員会議 指導助言**主題：発達課題：発達の姿の捉え方****【 学年経営案について 】**

心理学には発達課題という言葉がある。発達課題とは、乳児期、幼児期、児童期、思春期、という各発達段階において、人が身に付けていかねばならない心の機能を意味する。たとえば忍耐力、自制心、やり抜く力を指す。学年経営案の「目指す子どもの姿」が附属の児童に必要な発達課題に相当する。特に児童の実態から「目指す子どもの姿」という附属の児童に合った発達課題を見つけているところが学年経営案の特徴である。

【 忍耐力、自制心、やり抜く力といった心の機能の育ち方 】

忍耐力、自制心、やり抜く力といった心の機能は、ほっておいても自然に育つのではない。心の機能は、必要に迫られ、実際に使ってはじめて育つ。使う必要のない筋肉は発達しない、と言われるが、心の機能も同じで、使う必要のない心の機能やなくても生きていける心の機能は育たない。たとえば、我慢した経験がないのに忍耐力が育たずが育たない。同様に我慢する必要がない環境では忍耐力が育たない。

「学年経営案」では、どんな心の機能を育てたいのか、そのためにはどのような働きかけや経験が必要なのかという組み立てになっている点が、発達課題の育成の枠組みとして理にかなっている。どんな力がどう育っていくのかという発達の姿の道筋のイメージがつかみやすい。

【 発達課題を親が自覚しているか 】

問題は発達課題を保護者が自覚しているか、というところである。親が発達課題という意識をもたずに、子の先回りをして何でもしてあげていないか。「転ばぬ先の杖」を差し出すのではなく「転んだ時の起き上がり方」を教える必要がある。親が先回りして何でもしてあげていると、親が子の心の機能の発達の機会を奪うことになる。

「転ばぬ先の杖を差し出す」という「枠組み」でわが子をみるのと、「この時期にどんな心の機能を育てたいのか」という「枠組み」でわが子をみるのでは接し方が違ってくる。またわが子を評価する「視点（評価の物差し）」も違ってくる。こうした点を保護者に伝えよう。

【 公開研究会の全体論とのつながり：「枠組み」の意味について 】

これを公開研究会の全体論との関連で話すと、発達課題という「枠組み」で子の成長を捉えるというイメージになる。この枠組みの中に、自制心、責任感といった視点が含まれる。この視点に、協調性といった新たな視点が含まれると、枠組みの中の視点の数が増えたことになり、枠組みの更新になる。さらに発達段階によって、発達課題に含まれる視点の種類も変わる。高学年になると協調性、計画性、自分で目標を立てる力といった視点が重要になる。これが枠組み内の視点の組み替えになる。これも枠組みの更新になる。

また、自制心と責任感を合わせると「やり抜く力」になる。すると今までつながりがなかった自制心と責任感という二つの視点に新たなつながりが生まれ、自制心、責任感、やり抜く力という三

つの視点に新たな関係性が生まれる。これは枠組みの要素としての各視点の関係が変わるという意味で、これを構造の変化と呼ぶ。枠組み内の各要素（視点）の構造に変化が生じている。これも枠組みの更新になる。複数の視点をつなげた意味のまとまり（体系）が枠組みである。

2019年7月12日 先輩と語る会 挨拶

主題：附属小の5つの力（5色のバトン）

本日はお忙しいところ、本校の「先輩と語る会」にご出席を賜り、衷心より感謝を申し上げます。

さて、本校では昨日から大運動会練習が始まり、大運動会のシーズンに入りました。昨日の1回目の全体練習では、大運動会実行委員会による今年の大運動会のスローガンが発表されました。今年のスローガンは「全力・挑戦！未来へつなごう 五色（ごしき）のバトン」になりました。

ここで私なりに附属小がこれまで培ってきた、そして未来につながる五色のバトンの五つの色の意味を考えてみました。五色のバトンは附属小がもっている五つの力を象徴しているのではないかと考えました。

第一に、育给力です。育成とは、児童を育てる、学生を育てる、そして教師を育てる力です。

第二に、結束力です。児童と教師全員が同じ方向を向くことができる力です。集団が結束するためには、共有するものがが必要です。附属小には共有できるものがたくさんあります。

第三に、実行力です。すぐに実行に移るところは、附属小の先生方の大きな特徴です。

第四に、突破力です。ピンチやトラブルに陥っても必ず突破できます。修羅場、土壇場、正念場に強いのが附属の力だと思います。ピンチに陥っても、うろたえず、浮足立たず、振り回されない力があると考えます。

第五に、創造力です。生み出す力です。研究教育面に限らず、運動会の表現運動におきましても、オリジナルを生み出す力が附属の力であると考えます。

以上が、私が考える附属小の五つの力です。もちろん先生方お一人おひとりなりに五色の意味があるかと思います。本日はこうした力を創り上げてこられた先輩方と語り合うことをとおして、私たちが次の時代へと五色のバトンをつなげる自覚を新たにするために時間にしたいと思います。

2019年9月10日 運動会予行練習反省会 指導助言

主題：「変える」から「残す」へ

現在、運動会の練習が行われております。運動会練習も含めて、学校行事が児童に対して持つ意味を考えてみました。

通常、教師はともすれば児童生徒を「変えよう」という発想に陥りがちになります。しかし、児童生徒は教師の期待どおりに変わってくれるとは限りません。したがって「変えよう」という発想は、ともすれば教師の中に焦燥感や無力感を生んでしまう危惧があります。

そこで、「変えよう」という発想ではなく、教師が児童生徒の中に何を「残してあげられるか」と

いう発想をとってみてはどうかと考えています。思い出として、体験として、教師が児童生徒のなかに何を残してあげられるか、ということです。

このとき、教師が児童生徒に残してあげられるものの一つが「人とつながった」という体験だと思います。「先生や友達と一緒に勉強した、行事を頑張った」というつながり体験こそ、教師が、そして学校教育が、児童生徒に残してあげられる重要な体験の一つだと考えます。

こうした体験をもつことによってはじめて児童は、協力し合うことの価値を実感することができます。そして協力するという行動をとおして他者への信頼感という心が育っていくのだと考えます。

教師が児童生徒の心のコップに少しずつ体験を残していくのです。その体験が児童生徒の心のコップに少しずつ蓄積していきます。そしてその心のコップが一杯になったときが変わってくれるときなのではないか、と考えます。

2019年9月10日 運営委員会 指導助言

主題：私型メッセージ・あなた型メッセージ

現在、運動会の練習が行われています。練習をとおして先生方は多くのメッセージを児童に送っていることと思います。そこで今日はメッセージの分類をしてみたいと思います。メッセージには複数の分類の仕方があります。

第一に主語で分類する方法があります。主語が「あなた」か「私」かでメッセージを分類することができます。たとえば「よく頑張った」、「こうすればよくなる」といったメッセージは主語が「あなた」なので「あなた型」メッセージになります。

一方で「先生はうれしい」「先生は悲しい」は主語が「私」なので、「私型」メッセージになります。指導の際は「あなた型」メッセージが多くなると思いますが、「私型」メッセージも有効です。たとえば「君の行動に対して先生は悲しい」「お母さんは悲しい」と言われたら、どう思うでしょうか。人間は誰でも身近な人を悲しませたくないという気持ちがあります。したがって私達は、身近な人を悲しませないように行動します。このことは私達の行動が身近な人からの心理的な拘束（しほり）を受けていることを意味します。これを心理学では情緒的拘束性と呼びます。

「私型」メッセージは、自分が周囲に何らかの影響を与えているのだ、ということを実感させてくれます。この実感が生きているという手応えを生みます。挨拶を届ける意味も、この実感を生む点にあります。相手から反応が返ってくことで、自分が周囲に影響を与えているということ、自分からの働きかけに周囲からの応答があるということを実感できるのです。自らの働きかけに返ってくる応答を実感できることが生きているという手ごたえを生み、自主性と積極性の土台となります。このように、人間は人との関係の中でしか生きているという実感を得ることができないのです。逆にこうした実感が得られないと生きているという手応えを感じることはできません。また情緒的拘束性がともに育っているかどうかは、生徒指導上の指標にもなります。

第二の分類は、これはよく知られているように、達成フィードバックと欠如フィードバックです。

達成フィードバックは相手が成し遂げたことに対するプラスのフィードバックです。欠如フィードバックは不十分な点になされるマイナスのフィードバックです。

先生方はいつも児童へのメッセージの与え方を工夫されているなあという思いで指導を拝見させてもらっています。

2019年9月24日 職員会議 指導助言

主題：与える力・人を幸せにする体験

8月から9月にかけて学校行事（運動会や吹奏楽、合唱部のコンクールなど）に参加させていただいた。その際の感想を述べる。

道徳の教科書に、病気の母親のために遠くの川まで行って汲んできた水を、他の人に分けてあげるといふ物語がある。この物語の主題は「自分一人だけの幸せであるのか。」だと私は考えている。「自分一人だけが幸せで、まわりが不幸だった場合、人は幸せを感じることができるのか？」という主題である。人間は「まわりが不幸で自分一人だけが幸せでも幸せを感じることができない」としたら、なぜなのか？

この点について社会学者の宮台真司さんは「周囲を幸せにする者しか幸せになれない」と発言している。周囲を幸せにして、自分も幸せになるためにはどうしたらよいか。「自分が周囲を幸せにした」という体験が必要である。「周囲を幸せにすることの価値を体験することが必要」と述べている。

児童が学校行事をとおして体験したことは「周囲を幸せにした」ことだと感じた。これは「与える力」だと言える。「運動会を参観してくれた人に感動を与えた、参観してくれた人を幸せにした」。こうした体験の積み重ねが「与える力」を育むのだといえる。

参考文献

アンドレ・コント＝スポンヴィル （1999）ささやかながら徳について 紀伊国屋書店

2019年10月1日 職員会議 指導助言

主題：功利主義・義務論・相互主義

現在、挨拶運動が継続されている。挨拶をする際に頻発する出来事として、「私が挨拶をしたのに、相手から挨拶が返ってこないという」ケースがある。こういうケースをどう捉えるかを考えてみる。

私が挨拶をしたのに、相手から挨拶が返ってこなかった場合、「挨拶をして損したのか」を児童に尋ねてみるとよい。「損得勘定で挨拶をしているのか」という点を尋ねてみる。このように問うと児童の挨拶観が浮かび上がる。この点について、複数の考えを紹介する。

【義務論の考え方】

結果はどうあれ、自分が置かれた状況の中で、自分がなすべきことをしっかりやったかどうかに関係なく価値がある。したがって、挨拶をすべき状況で自分が挨拶をしたことに価値があるのだから、相手の反応という結果に振り回されることはない。結果としてよいことがあったか、なかったかは問われ

ない。

【相互性の考え方】

「私が挨拶をしたのだから、あなたも私に挨拶を返すべきだ。」「私があなたに親切にしたのだから、あなたも私に親切にすべきだ。」「私はあなたに迷惑をかけていないのだから、あなたも私に迷惑をかけてはいけない。」という「お互い様」という考え方である。

この考え方からは以下のような理屈が成り立つ。困っているあなたを私が助けるということは、あなたが自分のトラブルに私を巻き込むことになり、あなたが私に迷惑をかけていることになる。よって私はあなたを助ける必要はない。相互性の考え方はプラスにもマイナスにも働く。

【功利主義の考え方】

挨拶をするとよいことがある。自分も相手もよい気持ちになり、幸せな気持ちになることができる。よいことがあるから挨拶をするのだ。功利主義に基づくと、結果としてよいことがなかったら、自分の行為には価値がなかったことになる。功利主義は自分と周囲の幸せの総量が増えることを目指す（功利計算と呼ぶ）。

【指導にあたって】

児童の発達段階と生活経験に即して上記の考え方を紹介するのが望ましい。低学年の場合は、功利主義がよいと思われる。高学年になると、「精一杯、頑張ったにもかかわらず結果が出なかった」という経験を持ち始める。このような時に自分を支えるための価値観として義務論を習得させるとよい。

高学年になって、児童が功利主義だけの価値観で自分を支えることができなくなった経験をもつようになったときに、児童が自分を支える価値観として、児童に義務論を学習させるとよい。

2019年12月10日 教育計画全体会 指導助言

主題：個性

ちょボラ、校門での挨拶を見学させてもらっていると、個性について考えさせられる。個性とは何をやるかではなく、いかにやるかに現れる。したがって個性とは「人と違うことができる」という意味ではない。

ちょボラでは、みんな同じ仕事をする。仕事自体は、みんなと同じかもしれない。みんなと同じ仕事をする中で、いかにして自分なりの工夫をしていくかに個性が現れる。みんなと同じ仕事をする中で、自分なりの創意工夫をしていく。そして、結果的に振り返った時にできているのが個性である。児童も一部の子は秀でた特技をもっているかもしれないけれど、大多数は普通で平凡な子である。最初から「人と違うことをしなければ」、「人ができないことができないければ」にこだわる必要はない。個性は何をやるかではなく、いかにやるかに現れる。

最初から、これは私の個性を生かせる仕事だと感じて始められる仕事はない。したがってみんなと同じ仕事を始める。みんなに割り当てられた仕事を始める。その中で、どんな工夫ができるかを考える。そこに違いが出る。その積み重ねが結果として個性になる。

2019年12月24日 職員会議 指導助言**主題：成功と失敗・順風と逆風**

今年1年間、先生方におかれましては、教育、研究、PTA活動等の仕事にご尽力いただき、衷心より感謝申し上げます。仕事につきましては、先生方も日頃からご自身なりの信念をおもちかと思ひます。仕事について私がいつも考えている内容を三点ほど紹介いたします。

第一に、成功と失敗についてです。なにごとにも成功、失敗はあります。注意する必要があるのは、失敗と敗北は違うということです。失敗は敗北ではありません。失敗しても敗北だと思わないことです。失敗しても失敗を敗北にしないところに本当の強さがあるかと思ひます。失敗を敗北にしない強さに価値があるのだと思ひます。負けたと思った時点で負けになります。失敗しても負けたと思わないことです。

第二に、仕事をしていると逆風とを感じる時もあれば順風とを感じる時もあるかと思ひます。しかし逆風か順風かの判断は簡単にはつかないため、長いスパンで見る必要があります。イギリスのチャーチル首相の言葉で「風が一番高く上がるのは、風に向かっていている時である。風に流されている時ではない」という発言があります。飛行機でも風でも逆風で生じる揚力で揚がっているわけです。逆風の時に力を蓄えておくことをお勧めします。

第三に、これは今年の公開の際にも紹介しましたが、幹と枝葉を区別しておくことです。幹が大丈夫であれば、枝葉のトラブルは気にしなくてもよいでしょう。しかし、幹と枝葉の見境がついていないと、枝葉のトラブルにふりまわされることになります。これは研究会の質疑応答にもあてはまります。質問が幹についてなのか、枝葉についてなのかを見極めることです。

2020年1月4日 職員会議 指導助言**主題：わが子への親の期待：期待の拘束性（呪縛（しばり））**

親からのわが子への期待について話をします。期待にはプラスの面がありますが、今日は期待する側が陥りやすい注意点の話です。親はわが子に期待をします。すると期待される方（子）と期待する方（親）の両方に縛り（拘束・呪縛）が発生します。期待にはこのような拘束性が生じます。

注意が必要なのはわが子に期待する親の方です。親はわが子に期待します。この時次の点に注意が必要です。親は、自分がわが子にかけている期待に自分自身が縛られます。親がわが子にかけている自らの期待に親自身が縛られてしまうのです。するとどうなるかというと、「わが子はどうあるべきだ」、「わが子はどうでなければならない」、「わが子がそんなことをするはずがない」

「わが子はこれくらいできるはずだ」といった感覚に親自身が縛られてしまうのです。親がわが子にかけている期待に親自身が縛られてしまうのです。

しかし、わが子が親の期待通りに育ってくれるとは限りません。子育ては親の思い通りにはいきません。問題は、わが子が親の期待からはずれた時です。わが子が親である自分の期待どおりにいなかった時です。この時、子に対する期待の縛りが強い親は、わが子を許せなくなります。わが

子を受け入れることができなくなります。親としてはここを自覚しておく必要があります。親が自分の期待に強く縛られていると、わが子が期待通りにいかなかった時、親の期待は簡単に期待の放棄と失望に反転します。親の期待の放棄と失望にさらされた子どもはきついです。

親がわが子に期待するのは当然です。したがって、自分がわが子にかけている期待に自分自身が縛られるという自覚をもちながら、わが子に期待しましょう。

2020年1月8日 職員朝会 指導助言

主題：忠恕と中庸

これまでの生活の中で、心がけながら困難だった言葉を紹介します。今年はできるようになりたいと思っています。

① 忠恕

組織では忠恕で生きる。忠は誠実、忠実。人のために何かをする献身の意味である。恕は寛容、思いやり、赦しを意味する。もちろん赦しにも限度はある。

② 中庸

道徳は中庸である。中庸とは、均衡と調和を図ることであり、極端にならないことである。極端になることは楽。極端にならないこと、均衡をとることは難しい。

今年は、この二つの言葉を心掛けたい。

2020年 1月21日 職員会議 指導助言

主題：児童のうそ

親や教師にウソをつく児童は多い。児童のウソをどのように理解するかについての話をする。ポイントは二点ある。

第一は、ウソをつかねばならなかった必然性を汲み取ることである。ウソをつかねばならない必然性がない子はウソをつかない。ウソをつかねばならない必然性がある子はウソをつく。必然性としては以下が考えられる。(1) 何を怖がっているのか。(2) 何を守ろうとしたのか。(3) 何がほしかったのか。これは、「かまって、かまつのウソ」「もっと注目してのウソ」である。

第二に、ウソをついている子が今、どんな状態にあるのかを汲み取ることである。息を吸って吐くようにウソが出てくる。先生は完全にだまされる。こうした児童は、どんな状態にあるのか。以下の状態が考えられる。(1) 善悪の判断力が育っていない。(2) ウソが悪いことだと思っていない。ウソが悪いことだと思わなくなった理由として、叱るときにすぐに手がでてしまう親に育てられたことが考えられる。親子関係の中で、そういう対大人関係を学習してしまった。つまり、大人から叱られるときは叩かれることを学習した。すぐに手が出る大人から自分を守るためにはウソをつかざるをえない。自分を守るためのウソであるから、悪いという感覚が麻痺する。

ウソをつく、つかないという視点ではなく、ウソをつく子の精神状態のありよう、および精神発

達を見立てる必要がある。

2020年2月4日 職員会議 指導助言

主題：心の機能の育ち方：どうして学校に規則があるのか、規則・規範、他律から自律へ、容儀指導の意味

どうして学校に規則があるのか、学校の規則が児童の成長に果たす役割を以下に示す。

① 規則・規範の役割

規則・規範という言葉は行動を制限したり、束縛するイメージがあるかもしれない。しかし実は逆で、規則・規範には行動を育てる（行動を形成する）働きがある。規則や規範に沿った行動をとることで、その行動ができるようになる。例えば「早寝、早起き、朝ご飯」といった規範に沿った行動をとることで、これらの行動が可能になる。

したがって、児童に身に付けてもらいたい行動を、日常の規則や習慣として行ってもらおうとよい。

② 他律から自律へ

学校に規則がある理由は自分を律する自律の力を育てるためである。学校の時代は、他者から律してもらおうという他律の時代になる。重要なのは、この他律の時代に児童は何を学習するか、という点である。

他律の時代に児童は、自分に枠をはめるという経験をもつ。この経験によって児童は「自分で自分に枠をはめる」という力を習得する。「自分で自分に枠をはめる」という経験が自分で自分を律する自律という心の機能に育つ。したがって他律の中から自律という心の力が育つ。自律の力は、何もないところから自然と育つのではない。

自律の力が育つためには、その前提として、他者から律してもらおうという他律の時代を経験しておく必要がある。自律の力が育っていない子は、その前提としての他律の経験が不十分である。これは学校だけではなく、家庭でのルールにもあてはまる。文科省から出ている「生徒指導提要」のキーワードになっている自己指導力という言葉が自律に相当する。

③ 自分の言動の準拠枠：モラル・コンパスとして

規則と規範があることによって落ち着くことができる。規則と規範が自分の言動の準拠枠（よりどころ）になってくれる。児童生徒は不安定で漂っている状態である。規則と規範はその漂いを収めてくれる。自分の言動の良し悪しを判断してくれるよりどころになってくれる。このよりどころを「モラル・コンパス」と呼ぶ。

④ 心の機能の育ち方

自律の力と同じように、忍耐力といった心の機能は放っておいても自然に育つのではない。忍耐力が育つためには、その前提となる経験として、我慢するという経験が必要である。我慢したことがないのに忍耐力が育つはずがない。使う必要のない心の機能やなくても生きていける心の機能は育たない。特定の心の機能が育つためにはその前提になる経験が必要である。したがって、親が自

覚的に、わが子に必要な経験を考えることが大切になる。

⑤ 容儀指導の意味

ハンカチ、ちり紙、つめ、帽子、ネームといった容儀指導は次のような意味がある。第一に、同じ物を忘れずに毎日準備できるかどうかは、児童の日々の状態を映し出している。不安定な子や生活が乱れている子は同じ物を毎日準備することができない。

第二に、容儀指導とは型の指導である。暮らしの型を作ることで、心を落ち着かせることができる。江戸時代の儒学者である貝原益軒の言葉に「礼あれば心もまた定まりやすし。」がある。この言葉の意味は、型を整えることによって心を整えることができる、と解釈できる。型とは基本的生活習慣であり、立ち居振る舞い、礼儀作法である。

引用文献

貝原益軒 (1991) 養生訓・和俗童子訓 ワイド版岩波文庫 岩波書店

2020年2月18日 職員会議 指導助言

主題：どうして学ぶのか、学ぶ理由

「どうして勉強しないといけないのか」を小中学生に説明することはむずかしいが、例を使って説明すると分かりやすい。以下に例を使って示す。

① ピラミッドのイメージ：基礎学力は幅広くとることの必要性

学力をピラミッドのイメージで捉えてみる。ピラミッドの頂点を高くするほど、その高さを支えるだけの底面積の広さが必要になる。したがって将来、ピラミッドの頂点を高くしたいのであれば、土台の底面積はできるだけ広くとっておく必要がある。底面積が狭いと途中で倒れてしまうので、頂点が高いピラミッドはできない。したがって食わず嫌いをせずに幅広い教科の知識を身に付けておくことが必要である。

② 飛行機の燃料のイメージ：蓄積することの必要性

学びを、自分の飛行機に燃料を積んでいるイメージで捉えてみる。燃料をたくさん積むと自分の飛行機で高く舞い上がり、長く飛ぶことができる。燃料をたくさん積んで高く長く飛び続けると、見晴らしがよくなって視野が広がる。視野が広がると、多くの事柄が見えるようになる。すると将来、自分がやりたい勉強、自分に合った分野を見つけやすくなる。

しかし燃料が少ないと、高く舞い上がることができないし、長く飛ぶこともできない。その結果、視野が狭くなるから、自分がやりたい勉強、自分に合った分野を見つけにくくなる。

2020年2月26日 職員会議 指導助言

主題：叱り方、保護者への伝え方

【 叱り方 】

叱り方について二つのポイントを挙げる。

① 存在と行動を区別する

叱る方も叱られる方も存在と行動を区別する。特に叱られるという事態を、子がどのように受け止めているかがポイントである。叱るというのは、特定の場面での行動の修正を求めているのであり、相手の存在を否定しているのではない。この点を親が自覚しておく必要がある。親がこの二つを混同した叱り方をしていると、子は叱られるということは自分を否定されることだと受け止める。すると先生から叱られている事態も、同じように受け止める。「あなたのことは好きだけど、やったことはいけないよ」という精神で叱る。

② 子の今だけを見ない

将来、わが子にどんな人間に育ってほしいのかを考え、長期的な視野をもつ必要がある。たとえば、「最終的にわが子には、自主的に考え、自発的に行動できる自立と自律ができた人間に育ってほしい」と考えているのであれば、そのためにはどんな叱り方がよいのかを考える。

わが子がどんな人間に育ってほしいのかを考えた叱り方をするためには、わが子に何を習得させるために叱るのか、という叱る目的を親が自覚しておく必要がある。叱る目的は、わが子に「してもよいこと、してはいけないこと」という行動の判断規準を習得してもらうところにある。そこで叱る時には、子に習得してもらいたい判断規準を叱る理由として示す（または考えさせる）必要がある。

たとえば、低学年であれば禁止行為の判断規準としては、（１）自分に危険（自己危害の回避）、（２）他人に危険（他者危害の回避）、（３）他人の持ち物（他人の持ち物の尊重）、といった種類が挙げられる。これらの判断規準を子に習得してもらうために叱る。判断規準を示してもらえると、子は納得感を得ることができる。

叱る際には、できるだけ頭ごなしの否定表現（たとえば「ダメ」）を使わずに話す工夫をする。たとえば「手も洗わずダメじゃないの!」ではなく、「帰ってきたら、まず手を洗ってから遊ぼうね」というように「どうすればよいのか」という行動の順序を具体的に示してみる。

【保護者への伝え方】

過去の原因追求ではなく、「これからどうするか」という視点がよい。原因を追及しない。たとえば、「なんでこんな子になりましたかね」と原因を追及する姿勢を見せると親は自分が責められているように感じる。すなわち、「親であるあなたの育て方が悪かったからこうなったのでしょ」と言われたように感じる。

人間の行動は複数の原因が重なっているのに、何かができないといっても、一つの明確な原因を特定できない。たとえば不登校のケースもこの見方があてはまる。過去ではなく現時点の発達段階で「できていること」と「(本来できていなければならないのに) できていないこと」を整理する。そのうえで、「(本来できていなければならないのに) できていないことがこれからできるようになりますよね」という姿勢で、「これからこういったところを学べばよい」と今後、学習すべき点として示すと親も受け入れやすい。

2020年3月11日 教育計画全体会 指導助言

主題：整理整頓

附属小学校では、トイレのスリッパ、廊下に並べてある「ぞうきん」、体育館に並ぶ「うわばき」、掃除用の一輪車がいつも整理整頓してある。そこで整理整頓からわかることを考えてみる。整理整頓から何がわかるかを一言で表現すると、「美しいものが美しいのではない。美しく使われているものが美しいのだ、丁寧に使われているものが美しいのだ、」ということがわかる。学校にある、トイレのスリッパ、ぞうきん、うわばき、掃除用一輪車は、一つひとつは決して美しいとは言えない。

トイレのスリッパの例で説明する。一つひとつのトイレのスリッパそのものは決して美しくはない。しかし、スリッパを整理して並べると全体として美しくなる。かりに、トイレのスリッパをすべて新品にして、一つひとつを値段の高い美しいスリッパに替えたとする。しかし、一つひとつは美しいスリッパでも、それらのスリッパを投げ散らかしていたら、全体としては美しくはならない。

整理整頓の機能は、一つひとつは美しくないものでも、それらが集まったときの全体の姿を美しくするところにある。学校にある掃除用具やスリッパ、うわばきの一つひとつは美しくはない。しかしそれらを整理整頓して丁寧に扱うことで、教室全体や学校全体の姿を美しくできる。

「美しさ」の定義はたくさんあるが、カントという18世紀のドイツの哲学者は、美しさを次のように定義する。美しさを感じるかどうかは、「快か不快か」のどちらの感情が起こるかで決まる。美の基準は、快か不快かの感情である。対象から心地良さを感じることができればその対象は美しいのだ。

この意味を全体と要素という言葉で説明する。一つひとつのスリッパは要素になる。一つひとつのスリッパが美しいか美しくないかが要素の性質になる。スリッパが集まった状態を全体とする。するとスリッパがどう並んでいるかが要素と要素の関係になる。

すると、今の例から、全体の性質は一つひとつの要素の性質とは別のものになる。全体は個々の要素の性質を超えた性質をもつことができる。全体の性質は、一つひとつの要素の性質よりも、要素と要素の関係のあり方によって決まることがわかる。

関係のあり方が、一つひとつの要素の性質を超えた全体の性質を生み出すことがわかる。「ぞうきん」や「スリッパ」の場合、均整と秩序がとれた並びにすることが関係のあり方になる。

要素である一つひとつの「スリッパ」や「ぞうきん」をしまう時にはきれいに仕舞う。これがきれいに使う、ていねいに使うということである。すると全体を美しくすることができる。だから「美しいものが美しいのではない。美しく使われているものが美しいのだ、丁寧に使われているものが美しいのだ」という表現になる。

参考文献

山内志朗 (2007) 〈つまずき〉のなかの哲学 日本放送協会出版

2020年3月16日 職員会議 指導助言

主題：罰反応性

性格特性の一つである罰反応性について紹介する。性格の分類基準はたくさんあるが、罰反応性とは児童が罰を受けたときに示す反応である。つまり、叱られたときに示すリアクションである。罰反応性は高いタイプと低いタイプに分かれる。叱るときはこの二つのタイプによって叱り方を変えろとよい。

① 罰反応性が低い性格

一言で表現すると、「平気、懲りない、あつかましい」タイプである。このタイプへの叱り方のポイントは、一貫性のある賞罰の与え方をするこゝ（同じ行動をとつても、ある時は叱る、ある時は叱らないというように規準がはっきりしない叱り方をしない）、すなわち、信賞必罰（信賞は賞を与えるべき者には賞を与えること、必罰は罰を加えるべき者には罰を加えること、賞罰を正しく行うこと）が望ましく、少数のしつけ項目に的を絞る、例外を許さない指導が必要になる。

このタイプの子は「試しの行為」といって先生の許容範囲を試してくる（どの程度までなら大丈夫かを試す）。また、このタイプが思春期に非行に走ると元に戻すのに時間がかかる。

さらに、このタイプの子には、罪悪感や良心の呵責という心の機能が育っているかの確認が必要である。育っていない場合、注意されるとすぐにふてくされたり、切れたりする。また平然とウソをつくという特徴がある。

② 罰反応性が高い性格

一言で表現すると、「まじめ、小心、慎重」である。このタイプは、「しつけやすく、定着しやすい」が、叱ると萎縮し、融通がきかなくなる。また、ありのままの自分の感情を抑圧しやすい。

したがって、許容的、逸脱促進（多少はずれても大丈夫だよ）的、ツラの皮を厚くする指導が必要である。

③ 注意点

注意が必要なのは、個別に叱る時ではなく集団全体に同じ注意をする時である。本来、メッセージを向けた「平気、懲りない、あつかましい」タイプはメッセージを素通りしてしまい、「まじめ、小心、慎重」タイプだけがメッセージを受け止めてしまう。したがって叱るときは、できるだけ個別に、児童生徒のタイプを把握したうえで叱るのがよいと思われる。

参考文献

頼藤和寛 （1992） ホンネの育児論 創元社

2020年4月1日 運営委員会 指導助言

主題：価値観は高く

フランスのファッションデザイナーであるココ・シャネルの言葉を取り上げる。こういう生き方を見習いたいと思うからである。その言葉とは、「頭と価値観は高く保っておきな」である。

これを私の解釈で紹介する。この言葉の意味は、自分を見つめる視点の高度を上げ、俯瞰的に自分を捉えろという内容である。低いところに下ってしまうと高いところが見えなくなる。自分を見つめる視点の高度を上げるとは、自分の役割を今より大きな価値の中で位置づける、という意味である。高いところから自分を見ると、逆境も順境もないのだ。自分の境遇だけに囚われるのではなく自分の境遇以上のところに目を向け、そこから自分の境遇を見下ろす。

自分が保てなくなった時は価値観の高度を上げてみよう。低い次元の価値観から高い次元の価値観に価値観の高度を上げると耐えていける。2011年に「なでしこジャパン」がワールドカップで優勝した時の元日本代表野田朱美さんの言葉を紹介する。「自分のためだけにプレイしたのではなく、日本の女子サッカーそのものの地位を高めるためにプレイしたから最後まで走り続けることができた。」この言葉は、「頭と価値観は高く保っておきなさい」という言葉と全く同じ発想である。

2020年4月2日 職員会議 指導助言

主題：自分と向かい合う二つの方向

新しい年度になり、それぞれに新しい仕事が始まる。そこで仕事に取り組む際の、「自分との向かい合い方」についての話をさせていただく。

自分と向かい合う方向は2種類ある。一つ目の方向は、自分の方針を大切にする方向である。自分を大切にする方向である。二つ目の方向は、自分の方針を捨てる方向である。これは自分を捨てる方向である。

たとえば、職場では職場全体の方針で動く必要があるので自分の方針は捨てなければならない。しかし、自分の方針を捨ててばかりでは自分がもたない。人それぞれ自分の方針や「ここだけは譲れない」といった領域がある。どこかで自分の方針を大切にする領域を確保しておく必要がある。そこで現実的なスタイルとしては、職場全体の方針にしたがう中で、個々の取り組みにおいては自分の方針を大切にして自分らしさを出すというスタイルになる。

ここでポイントになるのは次の点である。まずいのはこの二つを切り離して考えることである。切り離すと一方に偏る。どちらか一方に極端に偏ると、心のバランスが崩れる。生きづらさを感じる時というのは、このバランスが崩れている時である。切り離して考えないことが重要である。切り離さないで、この二つの方向の中で生きていく工夫をすることである。

以前、道徳は均衡と調和を図る力だという話をした。切り離さずに均衡と調和を図ることである。均衡と調和とは両方を生かすという意味である。

この考えは以前紹介した楢円の理論で捉えることができる。楢円の理論では中心は一つではなく、二つあると考える。自分を大切にするのか、捨てるのかも二つの中心である。以前、お話しした他律と自律も二つの中心になる。人間の心の機能は、たとえば、厳しさとやさしさ、理想と現実、快楽と苦しみ、善と悪、愛情と憎しみ、といったように一見、反対に見える対になった概念が多い。これらが二つの中心の例である。

ここでポイントになるのは、一見、反対に見える二つの中心は対立しているのではなく、一体的な関係にあるということである。以前、他律の中から自律が生まれるという話をした。したがって他律と自律も反対の概念に見えるが、一体的な関係である。

これら二つの中心を自分のなかでどのように関係づけるかが重要である。切り離さないことである。切り離すと偏る。切り離して一方に偏ると心のバランスが崩れる。

これを視覚的なイメージで捉えると、自分にこだわりすぎると自分が重たくなるのだ。自分を捨てると自分が軽くなる。自分を捨てると、自分が軽くなり、高く舞い上がることができる。高く舞い上がると、視界が開け、視野が広がる。自分の意見だけが絶対正しいのではなく、他にも多くの意見があることがわかる。

しかし、自分にこだわりすぎて、自分が重たくなると、高く舞い上がることができない。視野が狭いままになり、独善的になってしまう。

自分の基準にこだわりすぎて、自分が重たくなっていないかを時々、振り返ってみよう。生きづらさを感じる時は、自分が重たくなっている時かもしれない。自分基準という重力から解放されると楽になるかもしれない。

人間の性格の違いは二つの中心の関係づけ方の違いや比重の置き方の違いから生まれる。キルケゴールという有名な哲学者は、相反する二つの中心を関係づけることで自分になる、と言っている。どんな関係にしようとしているのかを自分でチェックするとよい。

2020年4月7日 職員会議 指導助言

主題：集団のリーダーの条件

集団のリーダーに求められる条件としては、以下の三点が挙げられる。第一に安定性である。リーダーは、安定している必要がある。児童生徒は不安定である。不安定な人に必要なことは安定である。リーダーがうろたえたり、浮き足立ってはいけぬ。第二に明確な方針である。リーダーは明確な方針をもっておく必要がある。方針が明確だと児童生徒も安心できる。集団の結束力は明確な方針のもとに生まれる。方針が、児童生徒が拠って立つ基準になる。第三に方針がぶれないことである。リーダーは簡単に方針を変えてはいけぬ。方針がぶれると方針が方針でなくなる。リーダーの方針がぶれると、児童生徒に見透かされる。

2020年4月14日 職員会議 指導助言

主題：群集と集団、協力と信頼

① 群集と集団

集団と接する場合、群集と集団の区別が必要である。児童生徒にとって学級とは、たまたま入れられた器であり。児童生徒同士が同じ目的や友情のもとに集まったのではない。したがって児童にとって学級とは、最初は集団ではなく、ただの群集なのである。この群集を集団に育てていく作業

が学級づくりになる。

集団のメンバー同士が共有するものを紐帯と呼ぶ。紐帯ができると集団になる。集団をまとめるためには、紐帯づくりが必要である。学級や学校の行事をとおして意図的に紐帯づくりをしていく必要がある。紐帯とは具体的には、集団のメンバーが共有する同じ活動、同じ気持ち、同じ目標、同じ規則であり、共有できるものはすべて紐帯になる。

② 協力と信頼

群集の時期はメンバー同士に信頼関係はないかもしれない。よって信頼関係を作る作業が必要になる。もともと信頼関係があるから協力するのではない。実は逆で、協力した結果、信頼関係ができるのだ。協力という行動の結果、信頼という心が生まれる。

学級が群集レベルにとどまり、集団になっていない場合、いじめが生じやすい。群集はその場の空気や面白半分の雰囲気に乗せやすく、流されやすく、暴走しやすい。しかも「みんなと同じことをしている」という意識があるので、罪悪感や良心の呵責を感じにくくなる。群集を集団に育てていくための取り組みが、いじめをなくす土壌になる。

2020年4月21日 運営委員会 指導助言

主題：価値づけることの意味・善悪を経験することの意味・自覚化

価値づけるの意味について、よいことと悪いことを例に説明する。まず、悪いことを取り上げる。悪を実行しただけでは、自分は悪いことを経験したという自覚は生まれない。悪を実行するのが第1段階、その後、第2段階として悔い改めるという段階が必要である。悔い改めてはじめて、悪を経験した、過ちを犯したという自覚が生まれる。

悔悛という自覚があってはじめて学習ができる。自覚化とは意味づける活動である。学習するともう繰り返すことはない。自覚がなければ学習ができない。悪を実行しても、悪を実行したという自覚がなければ、また同じことを繰り返す。

次に善について取り上げる。よいことも同じ段階があてはまる。第1段階としてよいことを実行する。第2段階として、そのよい行為を価値づけてもらう。価値づけてもらってはじめて自覚が生まれる。自覚があると学習ができる。自分がやった行為の意味がわかる。

第2段階の悔い改めと価値づけはともに自覚化の段階に相当する。自覚化は意味づける活動である。学習するためには、善も悪もともに自覚化の段階が必要である。

参考文献

シモーヌ・ヴェイユ（1995）重力と恩寵 ちくま学芸文庫 筑摩書房

2020年4月21日 職員会議 指導助言

主題：代理自我・わが子の愛し方

親がわが子を愛するのは当然である。ポイントは、わが子の年齢によって愛し方と支援の仕方を

変えるところにある。わが子が幼稚園、小学校、中学、高校と成長するにつれて、発達段階にふさわしい愛し方と支援の仕方がある。にもかかわらず、いつまでもわが子が幼稚園のときと同じような愛し方（支援の仕方、関わり方）をしている親が見受けられる。

親子関係を考える際に重要となる概念に代理自我がある。代理自我とは、本来、子が自分で取り組まねばならない課題を、親が先回りして子の代わりにやってあげる行為である。これではいつまでも子に自発性、自主性、積極性が育たない。最もまずいのは悩む力が育たないことである。

私は、昔、中学校と高校でスクールカウンセラー（文科省）を務めていた。当時、私が中高生の不登校で最初に確認していたのは、本人がどれだけ悩んでいるかということであった。本人は全然悩んでいない代わりに、親が「このままでいいのだろうか、将来どうしようか」と子どもの代わりに悩んであげているケースがたびたび見受けられた。これらは親ではなく、本人が考えるべき課題である。親が子の代わりに悩んであげていると、いつまでも子に悩む力が育たなくなる。親が何を、どこまで支援するかは発達段階によって変わることに親が気づくことがポイントである。

2020年5月7日 職員会議

主題：枠組みの違い

コロナウィルスという病気が発生している社会状況を、枠組みという視点から読み解く。特定の事実が生まれると、人の心には「その客観的事実をどう捉えるか、どう意味づけするか」という枠組みが発生する。

たとえば病気という事実が発生した場合、医療者は「病気の原因、病気のしくみ、治療と予防方法」という「病気の原因と治療、予防」という枠組みで捉える。したがって「人との接触を8割減らす10のポイント」という予防策も医療者側の枠組みで作成されている。

一方で患者や一般の人にとって病気とは、単なる客観的事実ではなく、暮らしの中の意味のある出来事になる。つまり「病気という事実が自分の暮らしに与える影響」という枠組みで捉える。したがって、これらかの生活をどうするか、仕事はどうなるのか、家族をどうするか、自分の人生の来し方行く末を案じる。

今、社会では、この二つの枠組みの違いが鮮明になり、露呈されている状況である。二つの枠組みの違いは「休業要請や非常事態宣言をいつまで続けるのか」といった対立として表面化している。こうした枠組みの違いは、普段は表に出ないが、特定の条件のもとで活性化され、表面化する。

2020年5月21日 職員会議 指導助言

主題：実存主義

人間を捉える時の二つの視点を紹介します。人を理解する枠組みは二種類ある。一つ目は「一般」、二つ目は「個」（個人の個です）という枠組みです。一つ目の「一般」とは、「一般的なカテゴリー」を通して理解する方法です。一般的カテゴリーとは、たとえば、小学生とか、思春期、不登校、と

いった「一般的なくくり」です。一般的カテゴリーをとおしてみると、「もう 6 年生になったのだから」とか「小学生になったのだから」というように、人を「ひとくくり」にしてみる見方になりがちです。

人間を、一般的カテゴリーを通して「ひとくくり」にしてみると、「思春期とは、こういうものである。だからこういう対応をすればよい」「不登校とは、こういうものである。だからこういう対応をすればよい」「もう 6 年生だから、もう中学生だから…これくらいはできるでしょう」というように、対応の仕方もちとくくりになり、十把一絡げ的な対応になる危険性があります。

二つ目は個という枠組みです。これは、一般的カテゴリーをとおさずに、実際の個人の姿をありのままに捉えようとする見方です。実際の生活、性格、価値観、精神年齢、生育歴、といった固有性をそのまま捉える見方です。実際の存在の姿という意味で、省略して実存という言葉になります。実存主義は哲学の大きな柱です。5 月 15 日の公開全体会で紹介した構造主義とこの実存主義は 20 世紀の人間の思考の枠組みの二本柱です。(構造の意味は 2020 年 10 月 23 日の職員会議で説明)

物質ではなく、人間を理解しようとする場合、一般的カテゴリーだけで捉えようとすると、その人の固有性や独自性、中身を見落としてしまいます。

カテゴリーという言葉の意味は、もともとは全体を俯瞰するという意味です。しかし、人間を対象にする場合は特に、小学生、中学生、思春期、といった一般的カテゴリーをとおして全体を分類するだけではなく、実存の視点、すなわち一人ひとりの固有性、独自性という視点も忘れずにもっておくことが大切です。以前紹介した二つの中心をもつという楕円の理論です。

2020 年 5 月 28 日 職員会議

主題：身体感覚と皮膚感覚

新しい生活様式で今後、オンライン授業やデジタル配信型の教育機会が増えていくと思われる。こうした方向が進むと同時に大切にしてほしい人間の能力ある。それは「肌で感じる力」である。肌で感じる力は皮膚の感覚であり、触ることで感じる触覚に基づく。

肌の面積は広いので、皮膚は環境から多くの情報を受け取ることができる。皮膚が受け取る情報の典型例は暑さと寒さである。暑さ、寒さは肌で感じる。

視覚と触覚についても、対象は同じでも目で見る視覚から得られる情報と触ることによる触覚から得られる情報は異なる。たとえば、見た目はきれいな魚でも、触るとウロコは硬いし、背びれは鋭く尖っている。水槽で飼育している金魚やメダカの身体は生きている時は柔らかいが、死んだら固くなる。音楽にしても音は空気の振動である。耳ではなく肌で感じる音がある。これが演奏や合唱を生で聞く時に感じる迫力だと言える。

昨日と今日の朝の会で、久しぶりに児童の合唱を肌で感じることができた。今朝は児童が捕まえてきたヤモリの身体を握ってみた。ヤモリの身体はひんやりしていた。今日の生活科の研究授業でも土の固さが出てきた。これも皮膚感覚と触覚の働きである。

肌で感じる皮膚感覚や触覚，身体で感じる身体感覚は幼児期から児童期にかけて重要である。たとえば，幼児期の水遊びや泥遊びは皮膚感覚と触覚を育てる。すると概念だけではなく五感に裏付けられた現実感覚のある知識になる。

私たちの想像力の源は身体感覚である。たとえば私達は3階から飛び降りたら，どこにどんな痛みや衝撃が走るかをリアルに想像できる。その理由は，子ども時代に「平均台から飛び降りた」，「跳び箱で着地した」経験があり，飛び降りたときの衝撃を身体感覚で記憶しているからである。

子ども時代の痛みや衝撃を身体感覚として記憶しているため，自分と他者の痛みをリアルに想像できる。だから自分も三階から飛び降りることはないし，他者をそのような目に合わせることもしない。想像力とは単なる絵空事ではなく，現実感覚の裏付けをもつ。現実感覚に裏付けられた想像力が行動の抑止力として働くのだ。

オンライン，デジタル型の教育やバーチャルな仮想世界が教育に導入されると同時に，皮膚感覚，触覚，嗅覚，味覚といった身体感覚に働きかける活動が大切になる。こうした活動は，理科，家庭科，生活科，体育，音楽，図工といった教科で活かされる可能性がある。

2020年6月19日 いじめ防止対策委員会

主題：いじめと被害者意識

6月の生活努力目標は相手意識である。挨拶で相手意識をもつことがテーマになっている。いじめ防止にも相手意識が必要になる。特にあてはまるのが，いじめが執拗に続く場合である。執拗ないじめの場合，加害者が被害者意識をもっている場合が多い。「昔は被害者で今は加害者」というケースである。

加害者が過去にいじめを受けていた場合，加害者の中には被害者意識がたまったままの状態になる。このような場合，いじめは自分の被害者意識を払拭するために起きる。

自分の被害者意識を払拭することがいじめの目的なので，相手がどれだけ苦痛を感じているかに関わらず自分の意識が及ばない。つまり，相手意識は完全になくなる。その結果，相手の状態おかまいなしになる。相手の状態おかまいなしで，自分の被害者意識が払拭されるまで，自分の被害者意識が消えるまでいじめが続く。被害者意識は簡単には消えないので，被害者意識を払拭するためのいじめは執拗に続く。

なお最近は，児童生徒の自己肯定感や自尊心が脆弱になっているので，すぐに被害者意識をもつようになる点も問題である。

2020年6月23日 職員会議 指導助言

主題：児童生徒は自分をどのように表現するか（教育相談週間に際して）

① 児童生徒が自分を表現するチャンネルは三種類

教育相談やカウンセリングでは共感が大切と言われる。ここで先生方からよく受ける質問に「先生は怒らないから何でも話していいよ，と言っているのに，児童は何も話そうとしない。これでは共感はできない」というものがある。

ここでポイントなのは「共感は言葉のやりとりだけで展開するのではない」という点である。児童生徒は、言葉によって自分のありようを十分に表現することができない。「気持ちを話せ」と言われても「何をどう表現していいのかわからない」というのが正直なところである。思春期になると「自分でも自分の気持ちがわからない」となる。したがって「どうしてそんなことしたの?」「なにか不満があるの?」と聞いても、なかなか答えられない。

児童生徒が自分を表現するチャンネルは三種類ある。第一に言葉である。言葉が最もレベルが高い表現のチャンネルになる。第二に行動と態度になる。第三に身体で表現するチャンネルである。これが最も原始的な表現のチャンネルになる。例としては摂食障害、抜毛といった身体症状、リストカットや場面緘黙といった行為が挙げられる。

児童生徒は言葉にならないところを行動、態度、身体で訴える。これらの表現のチャンネルをとおして児童生徒が訴えているところを汲み取る作業が共感である。

② 共感のポイント

以下がポイントになる。

1. 児童生徒が言葉で明確に自分のありようを表現できるかどうかは過度にこだわる必要はない。
2. 原因追及については以下のように考える。人の行動は複数の要因が同時に影響を与えている。よってはっきりとした原因が明確に定まることがない。原因に過度にこだわる必要がない。
3. したがって、原因よりも今後どうしていくかを考える。児童の場合、何ができて、何ができていないかを整理して、できていないことができるようになるためには、今は何が必要かを考えていくことが建設的である。
4. 家族関係の歪みや家庭の影を児童が体現している場合がある。児童は自分の家庭の影を口外することはない。その代り行動や身体症状で体現する。家族関係の歪みは外からは見えにくい。家族自身も自覚していない場合がある。
5. 保護者が相手の場合は以下のケースが頻発する。すなわち、保護者は即効的な解決策がないような問題を持ち込んでくる。即効的な解決策がなく、閉塞状況にあることは相談してくる本人もわかっている。あるいは答はすでに自分の中でもっている場合もある。ではなぜ持ち込んでくるのか。答を求めているのではない。「自分がこんな問題で悩んだり苦しんだりしていることを知ってくれている人がほしい」から持ち込んでくるのだ。自分が苦しんだり、悩んだりしていることを知ってくれている人がいる。それだけで安心できる。一人ぼっちで悩んでいるのではない。そこはしっかり理解したことをメッセージとして伝えるとよい。

2020年10月23日 公開全体会 指導助言

主題：構造の意味

① 全体論の組み立てについて

現状は、構造という概念に振り回されている。構造という概念を使いこなすレベルが必要である。

構造主義は20世紀の人間の思考の枠組みと言える。構造主義が多くの学問分野に取り入れられた理由を考えるとよい。

言語学のソシュールは、構造という概念を取り入れることで言葉の本質を描き出せると考えた。文化人類学のレヴィストロースは構造という概念を取り入れることで親族（ファミリー）の本質を描き出せると考えた。ピアジェは構造という概念を使えば認知発達の本質を描き出せると考えた。すると同じように、構造という概念によって何を描き出そうとしているのか、を第一に考える。以下のような論理で考えるとよい。附属小では、学びの過程を枠組みの更新と捉えた。したがって、構造という概念を取り入れることで枠組みの更新の実態（実相）を描き出すことができるという必然性が求められる。「枠組みの更新をこういうふうに捉えているから構造という概念を用いる必要があるのだ」といった論理が必要である。よってはじめにあるのは枠組みの更新の実態であって構造ではない。はじめに構造ありきで考えるから構造という概念にふりまわされる。

② 構造の意味

構造は体系の性質をもち、複数の要素とその関係から成立する。英語で構造はstructureであるが、この語源は組み立てる、組み立てられた体系であり、要素同士の組み合わせ、配列の仕方を指す。要素は体系の中に組み込まれて初めて意味をもつ。

体系と構造は異なる。体系と構造の違いは変換（変容）である。単なる体系は変換ができない。構造は変換されて別の構造になりうる。肝要なのは変換（変容）という概念である。附属小の例でいうと、「ある体系が変換されて別の体系になる」のが枠組みの更新である。よって枠組みの更新の実態は構造という概念と合致する。したがって構造という概念で枠組みの更新の実態を描き出すことができる。このように構造という概念を使うと構造という概念を使いこなしていることになる。

複数の要素の中の一つが変容すると、変容した要素と他のすべての要素との関係が変容する。構造という概念を用いると、要素の1つに変容が生じると、全体がどう変容するか予測が可能になる。このことが構造という概念を用いる必然性になる。

2020年10月27日 職員会議 指導助言

主題：感情のコントロールと怒り

キレるとはどんな状態か？ 通常は、「感情⇒自分の感情を表す言葉⇒行動」という順に並ぶ。ここで真中の「自分の感情を表す言葉」が欠落するとどうなるか。感情は言葉によって意味づけられる。したがって言葉が欠落すると感情が言葉を介在しないまま行動に移ることになる。これは自分の感情の意味がわからないまま行動に出ているという状態を意味する。これは単に興奮しているだけで、これがキレた状態である。

感情を言葉で表すことで自分の感情を自分でコントロールできる。感情の正体がわかればコントロールがしやすくなる。特に友達と遊んで喜怒哀楽をぶつけ合う経験が少ないと、感情を言葉で表現する経験が不十分になる。ためしに自分の感情を言葉で表現してみるとよい。怒っているときを

例にとろう。イラッとしている、ちょっと怒っている、すごく怒っている、と言葉で表現してみる。自分の感情を言葉にすると自分で自分の状態がわかる。自分で自分の状態がわからない状態がキレた状態になる。

自分の気持ちが自分でわかると自分で自分をコントロールできる。したがって感情を表す言葉をたくさん知っておくとよい。

特に怒りという感情には注意が必要である。怒りや恨みは、自分の感情が相手に従属したときに生まれる。よって、怒りや恨みは相手に規定された感情である。怒りの感情が生じそうになったら、このことを思い出すとよい。

参考文献

ルーキウス・アンナエウス・セネカ (2008) 怒りについて 岩波文庫 岩波書店

2020年12月24日 職員会議 指導助言

主題：生きる原理としての受動性と能動性・今年一年を振り返って

人間の生きる営みの姿を受動性と能動性という概念で捉えてみる。具体例として今年のコロナの災いを考える。この具体例を抽象化してみよう。抽象化すると何が見えてくるかを考えてみよう。するとコロナの災いは、私たちが自分の力ではどうすることもできない事実であり、自分の意志ではどうすることもできない現実であることが見えてくる。

さらに抽象化してみる。すると人間の普遍的な生きる原理が見えてくる。すなわち、人間は自分の意志にかかわらず何らかの事実が与えられ、その事実を引き受けて生きていかざるを得ないという人間の境遇がみえてくる。

そして、この与えられた事実は偶然である。自分にどんな事実が与えられるかは自分の力や意志ではどうすることもできない。たとえば自分が生まれた時代、場所、自分の親を考えてみよう。人間は、そもそも親に生んでくれと頼んだわけでもないのに、生を与えられ、世の中に投げ出され、生きていかざるをえない。

このように人間は、自分に与えられた事実を受け入れ、引き受けて生きていかざるを得ない。ここで、こうした人間の境遇を受動性と呼んでおく。すると私たちは、自分の責任でもないのに、あるいは自分が望んだわけでもないのに、天から降ってきた事実を引き受けて泣く泣く生きていくしかないのだろうか。

人間が生きる尊さとは、こうした受動性の中につ理不尽さのなかでいかにして能動性を発揮していくかにある。これが人間が生きていくうえでの普遍的な原理である。

私たちは、自分に与えられた事実を受動的に引き受けていかざるを得ない。しかしその事態にどれだけ能動的な態度で臨むことができるかに生きる価値が生じる。どんな事実が与えられたかではなく、与えられた事実に向き合うかに生きる価値が生まれる。

コロナの災いを抽象化すると、受動性のなかで能動性を生きる、という抽象命題を導き出すこと

ができる。抽象命題は普遍性をもつ。今度はこの抽象命題を具象化する。抽象命題があてはまる具体例を考えると、その具体例の意義がみえてくる。例えば今年の運動会にもあてはめることができる。自然教室や修学旅行、学校の宿題、合唱部や吹奏楽部のクラブ活動にもあてはめることができる。能動性というのは制約の中にあつてこそはじめて価値が生まれる。能動性というのは、制約や囲いの中にあつてはじめて輝いてみえる。

私たちは今年一年、受動性のなかで精いっぱい能動性を発揮してきた。人間の生きる原理に照らし合わせたときに、今年一年はとても意味のある年だったと考える。

参考文献

三谷隆正 （1992） 幸福論 岩波文庫

大庭健 （2012） いのちの倫理 ナカニシヤ出版

2021年4月1日 職員会議 指導助言

主題：対になった概念について・二元論

本日は、二元論と呼ばれる対になった概念について話をいたします。世の中には対になっている概念が非常に多いと言えます。たとえば理想と現実、清と濁、強さと弱さ、愛と憎しみ、知性と情動、有限と無限、身体と心、あるいは聖域と俗域です。このように物事を二つの対立概念を通して捉えることを二元論と言います。二者択一の発想です。

こうした二元論、二者択一の発想は実はとても単純な発想です。二元論は物事を白と黒に単純に割り切ってしまう発想です。物事を白と黒に単純に割り切ってしまうと多くの事柄を見落としてしまいます。

一見対立しているように見える概念は、実は決して対立してはいないことを指摘したのは、ニーチェという哲学者です。一見対立しているように見える概念は本当に対立しているのか、もし対立していないのであればどんな関係になっているのか、という視点が必要であることを指摘しました。

例えば弱さと強さの関係はどうでしょう？弱さを乗り越えて強くなるのか、強くなるためには弱さを否定しなければならないのか。一方が他方を乗り越えるとか、否定するといった発想は対立という前提に立っています。

清い世界と濁った世界という清と濁はどんな関係にあるでしょう。理想と現実はどうでしょう。現実を否定して理想の世界だけに生きることは可能でしょうか。一方で、理想がない世界とはどんな世界なのでしょう。

一見対立しているように見える概念には、一方から他方が生まれたというケースがよく見られます。例えば現実を知ることから理想が生まれるのではないのでしょうか。

なぜ対立しているように見えるかという、二つの対立概念に価値の違いを見出しているからです。もし二つの対立概念はともに同じ価値をもつのだと考えてみたらどうでしょう。

毎日の仕事においては、理想と現実、清と濁、強さと弱さ、公と私、善と悪、聖域と俗域といっ

た、一見対立しているように見える二元論の世界と直面していかなければならないと思います。

決して二元論という単純で一面的な見方ではなく、一見対立しているように見える二つの世界を割り切ることなく、お互いが他方にどう生かされているのか、一方は他方にとってどんな意味があるのか、という両者の関係性を考慮すると見える風景が違って見えると思います。

参考文献

- フリードリッヒ・ニーチェ (1966) 悲劇の誕生 岩波文庫 岩波書店
 フリードリッヒ・ニーチェ (1993) 善悪の彼岸・道徳の系譜 ちくま学芸文庫 筑摩書房

引用文献

- みんなのどうとく5年 鹿児島県版 (2014) 学研教育みらい
 フリードリッヒ・ニーチェ (1995) ツァラトゥストラはこう言った ワイド版岩波文庫 岩波書店

参考文献

- アンドレ・コント＝スポンヴィル (1999) ささやかながら徳について 紀伊国屋書店
 貝原益軒 (1991) 養生訓・和俗童子訓 ワイド版岩波文庫 岩波書店
 三谷隆正 (1992) 幸福論 岩波文庫 岩波書店
 フリードリッヒ・ニーチェ (1966) 悲劇の誕生 岩波文庫 岩波書店
 フリードリッヒ・ニーチェ (1993) 善悪の彼岸・道徳の系譜 ちくま学芸文庫 筑摩書房
 大庭健 (2012) いのちの倫理 ナカニシヤ出版
 シモーヌ・ヴェイユ (1995) 重力と恩寵 ちくま学芸文庫 筑摩書房
 ルーキウス・アンナエウス・セネカ (2008) 怒りについて 岩波文庫 岩波書店
 山内志朗 (2007) 〈つまずき〉のなかの哲学 日本放送協会出版
 頼藤和寛 (1992) ホンネの育児論 創元社